

1. 6月例会の報告

6月28日明治大学で有井・戸谷両先生の退官記念講演が行われた。参加者：30名。まず、有井先生から、先生の長年にわたる氷食谷研究の一端についてお話があった。次に戸谷先生から、南極一次隊（JARE1）に参加された時の貴重な体験談・調査結果についてお話があった。講演終了後、両先生を囲むパーティーにも、岡山俊雄先生を始め多数の方が出席され、その席で、有井先生を名誉会員として推挙する旨の提案があり、満場一致、拍手をもって承認された。

2. サマースクールのお知らせ

当初の予定と若干変更がありましたが、別掲のとおり行います。特に前半の大雪山トムラウシ周辺巡検（見どころ：地滑り地と湿原、高山植生、構造土、etc.）は、集合場所・集合時間（8月23日夜または24日朝、北海道大雪山山麓周辺になると思います）等詳細の印刷が間に合いませんでしたが、申し込まれた方に直接ご案内いたします。もちろん前半だけ参加でも結構です。

3. 例会発表について

例会でこういうひとのこういう話が聞きたい等希望や計画案がありましたら事務局の方迄お知らせ下さい。お願いいたします。

サマースクール ' 8 6 予定

◎ 日程

8月28日

札幌：北大 環境科学研究科 出発 10時



日高山脈・山麓部 緩斜面



帯広着 夕方 帯広営林署宿舍愛林寮（泊）

8月29日

十勝平野 巡検 帯広営林署宿舍愛林寮（泊）

8月30日

帯広 → 根釧原野 別海町キャンプ場（泊）

8月31日

別海 → 斜里 斜里町立知床博物館宿舍（泊）

9月 1日

斜里 → 札幌

※全日程 北大・環境研のマイクロバスで行います。

希望者は8月28日夜、あるいは29日朝か夜に帯広で合流しても良い。

◎ 案内者：曾根敏雄（北大・環境研 D3）

小野有五（北大・環境研）

高倉裕一（白樺高校）

隅田まり（日大・応用地学）…交渉中

巡検案内

◆ 根釧地方

主として別海町を中心に歩く。岩田(1976)の上春別面を作る礫層上部には凍結クラック起源の楔状構造が多数見られる。多くは幅数十cm長さ1m程度の大きさである。間隔数m~数十mで出現することが多い。西春別・上春別・中春別周辺の砂利採取場でこれらの構造を観察する。

泉川において完新世及び更新世の火山灰層に見られるインボリューション、また上風蓮付近で谷地坊主・アースハンモックを見る。この他非対称谷やMa-fの古砂丘などの観察も適所で行いたい。

◆ 斜里地方

斜里・清里・小清水町を中心に歩く。本地域では約十数万年前以降の豊富な火山噴出物があり、このうちの多くの層準にインボリューションが認められる。十勝地方と異なり本地域では最終氷期前半に形成されたインボリューションも多く、最終氷期以前に形成されたインボリューションも存在する。これら形成年代の異なるインボリューションを中心に観察する。

この他ソイルウエッジ・古砂丘などもいくつかの層準に認められる。古砂丘は最終氷期後半に形成されたものが広く分布し、巡検中いくつかの露頭で観察できるであろう。



◎ 宿泊費用

帯広営林署宿舍愛林寮 2泊 ￥7700

別海町キャンプ場 1泊 ￥500

(寝袋借用希望者は他に ￥400)

斜里町立知床博物館宿舍1泊 ￥300

(シーツクリーニング代)

合計 ￥8500 (￥8900)

◎ 参加申し込み

7月25日までに下記へ参加申し込みをして下さい。電話でも可

〒305 新治郡桜村並木 2-109-102 小野有五

電話 0298 53-4465 (昼) 0298 51-5286 (夜)

尚参加申し込みの際には次の2点を明記すること。

○ どこから合流するか

○ 別海町キャンプ場で使用できるコンロ・コッヘル・食器の数

◎ オプション巡検

8月24日～8月28日

大雪山トムラウシ周辺を高橋伸幸君(北大・環境研 D3)が案内します。トムラウシから直接帯広へ出て28日夜に本巡検に合流します。参加希望者は申し込み時に知らせて下さい。寝袋・自炊用具が必要です。

氷食谷の研究——スイスのアール峡谷とオーストリア

イン谷付近の氷食谷を例として——

有井琢磨(大正大学)

この発表は、参考文献リ・2)を参考にして、氷食谷の横断面形の形成過程を指標にして考察したものである。

1 スイスのアール峡谷 アール峡谷(The Gorge of Aare)は、スイスのオーベルランド北東部を占める Grimselpass (標高2165m)のNNW約20kmに位置している Innetkirchen から約4km下流にある Miringen の南約1.3kmを下刻している(図1)。この峡谷は、更新世末期に延長300kmにおよぶ Rhone glacier の最上流部の氷食谷谷底に形成された。この地形は、ほぼ2万年BPから後退をはじめたアール氷河氷食谷谷にあり、石灰岩からなる Riegel (標高640-780m)が河食作用をうけて下刻された地形である。この峡谷の河床標高は600-630m、峡谷の幅は1-数10mで、その深さは130m内外である。¹⁾

2 オーストリアのイン谷付近の氷食谷 1) ベンテル谷(Ventertal) この谷は、Ötztal Alps の山地に形成された更新世の氷食谷であり、北方のイン谷へ南方から合流する一支出谷である。A. Penck (1909)²⁾によると、この谷のベント(Vent, 標高1896m付近)の谷形断面は、図2のようである。この氷食谷のNWNの Taufkapkogel (標高3367m)とSESのGr. Rampe-Kogel (標高3557m)の間にあり、ベンテル氷河の幅は3.8km程度、氷河底のV字状谷の幅は約1.8km(氷河の厚さは約400m)、氷河の全氷層厚は1200mに達した。ベンテル氷食谷の谷壁は、氷期前に下刻されたV字状の谷(下部)とU字谷(上部)の複合斜面からなる。

2) インスブルク付近の氷食谷 A. Penck (1909)²⁾によると、インスブルク東方約8kmにあるアルトランス(Aldrans)付近のイン谷の南北方向断面は、図2のようである。この図によると、更新世の氷河の幅は約12km、その厚さは約1700m、氷食U字谷の下位にある谷(皿型谷)の幅は約6.5km、U字氷食谷形成前の皿型谷の深さは約500mである。この皿型谷の谷底の一部は、埋積されている。

3 要約 1) アール峡谷は、氷食谷底にあった Riegel を下刻した主として更新世の河食で形成された地形である。

2) ベンテル谷は、氷食期以前の形成に由来する侵食U字谷が氷食をうけて、氷食U字谷と複合した地形である。

3) インスブルク東方 Aldrans 付近のイン谷は、氷期以前に侵食によって形成された皿型谷が、更新世の氷食作用で、

